

<令和6年12月定例記者会見>

1 開催日時

令和6年12月4日（水）午前10時30分～午前11時00分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社、読売新聞社

4 発表事項

(1) 小学生ロボット教室の開催について（企業振興課）

市内及び盛岡広域の小学生を対象とする「小学生ロボット教室」を滝沢市IPU第2イノベーションセンターにて、12月21日（土）に開催します。

この事業は、小学生のものづくりへの興味関心を高め、これからの時代に対応できる人材の育成につなげることを目的として実施するものです。

小学生ロボット教室の内容は、初心者向けと経験者向けの2コースあり、ブロック型のプログラミングからテキストプログラミングまで幅広く学習できます。

事業の周知及び取材についてよろしくお願いいたします。

(2) 滝沢はるかの販売について（観光物産課）

今年も「滝沢はるか」を販売いたします。

「滝沢はるか」とは、一般社団法人滝沢市観光物産協会が、市内で収穫されたりんごの「はるか」を、厳しい基準を設け、糖度計・蜜入りセンサーで計測、選別した高品質のものだけを「～黄金の濃蜜りんご～滝沢はるか」として販売しているものです。

その「滝沢はるか」を12月6日（金）午前10時から、一般社団法人滝沢市観光物産協会のネットショップ「チャグまるしえ滝沢」で販売開始致します。

また、糖度も、蜜入りも同程度ですが、表面にそばかすのような茶色のくすみが見られ「滝沢はるか」として販売出来ないりんごを「そばかすはるか」とし、12月6日（金）午前9時からビッグルフ滝沢の滝沢キッチン産直コーナーにおいて数量限定で販売致します。味は一級品です。ぜひ、ご賞味頂けばと思います。

本市ふるさと納税の返礼品としても取り扱う予定です。

現在、市内の産直では今回選果した「はるか」をはじめ、その他美味しいりんごが好評販売中です。是非、この時期旬を迎えている滝沢市産りんごをお買い求めいただければと思います。

(3) たきざわ旬の味覚マルシェの開催について（観光物産課）

令和6年12月20日（金）から12月23日（月）まで、銀座にある岩手県のアンテナショップ「いわて銀河プラザ」を会場に、「たきざわ旬の味覚マルシェ」を開催します。

11月下旬から12月初旬にかけて収穫した「滝沢はるか～黄金の濃蜜りんご～」をはじめとするりんごやサツマイモなどの旬を迎えた滝沢の味覚のほか、特産品開発補助金を活用して開発したりんごジャム、スイカ缶詰などの特産品加工品を販売します。

また、20日（金）から21日（土）はサツマイモ生産者が焼き上げる焼き芋を販売し、22日（日）から23日（月）は観光物産課にて勤務している学生アルバイトが滝沢のイチ推し商品をPRします。

滝沢はるかには首都圏にはほとんど出回らない大変貴重なリンゴですので、皆様ぜひ足を運んでいただき、滝沢の旬の味覚をお買い求めください。

（4）チャグチャグ馬コ初詣について（観光物産課）

来年の元旦もチャグチャグ馬コの初詣が行われます。

この行事は、平成14年の『午年（うまどし）』から開催されており、今回で24回目となる新春を彩る風物詩として鬼越蒼前神社と南部盛岡チャグチャグ馬コ同好会が共催しています。

開催場所は、滝沢市鶴飼の鬼越蒼前神社となりますが、今回はミニパレードのルートを延長し、神社境内前を出発した後、滝沢市役所裏の駐車場までチャグチャグ馬コ10頭が行進する予定です。

随時、記念撮影も可能となっており、来年度の一般社団法人滝沢市観光物産協会のチャグチャグ馬コ写真コンテストに応募することもできますので、多くの方に馬コの写真を撮っていただければと思います。

（5）「たきざわ自分ごと化会議」の開催について（たきざわ魅力発信室）

本市ではこれまで、「市政懇談会」「市長と話そう」などの機会を通して市民の皆さまとの意見交換を実施してきましたが、より多くの皆さまから多様な声を聴きたいという思いから、「たきざわ自分ごと化会議」を全4回の日程で開催します。

自分ごと化会議とは、無作為抽出で選ばれた市民の皆さんのうち、希望者をメンバーとして、さまざまなテーマについて話し合う場です。何かを決定する場ではなく、テーマを「自分ごと」としてとらえ、「自分たちなら何ができるか」「どうすれば市がもっと良くなるか」をみんなで考えます。

今回、無作為抽出した2,100人の市民の皆さんへ案内を送付し、現在参加希望を受け付けています。

参加を希望した皆さんをメンバーとして、テーマについて、そして滝沢市のこれらについて、ファシリテーターを中心に楽しみながら議論します。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：小学生ロボット教室は、初開催ですか。

企業振興課長：これまでも、夏休み、春休みなど長期休暇に合わせて、それぞれ1回ずつ開催しております。

記者：今回で何回目になりますか。

企業振興課長：ロボット教室というくくりであれば、昨年初めて開催したので、今回で2回目です。それ以前はプログラミング教室として開催していました。

記者：はるかは現在選果中と思いますが、今年はプレミアムは出そうですか。

観光物産課長：現在選果中なので確かなことは言えませんが、おそらく出るのではないかと考えています。

記者：夏に高温が続いたこともありましたが、はるかの出来、採れ具合はいかがですか。

観光物産課長：大変品質も良くできていると聞いています。ただ心配として、少し大きくなりすぎているのかな、というところです。今のところ選果の状況を聞いていても、今年もおいしいはるかをお届けできるのではと考えています。

記者：この後選果の取材に伺いますが、プレミアムが出るかどうかは行ってみないと分からないということですね。

経済産業部長：そうです。選果の会場で聞いていただければ、確かな情報が確認できるかと思えます。

記者：販売は6日からですね。

観光物産課長：そうです。

記者：「そばかす」含め、6日の販売以降はなかなか買えないものになりますか。

経済産業部長：選定の基準が高いので、全体的に数が少ないのものです。そうでなくても、はるかという品種自体がすごく甘みがあっておいしいものなので、ぜひ皆さんにお買い求めいただければと思います。

記者：味覚マルシェについて、毎年やっているものですか。

観光物産課長：昨年までは夏にやっていましたが、今年は冬にやってみようということで実施します。夏であればスイカを持っていきますが、冬ですのではるかをはじめとしたりんご、サツマイモ（焼き芋）の販売を通して、市の物産をPRしてくる予定です。

記者：開催を冬とするのは初めてですか。

観光物産課長：そうです。

記者：馬コの初詣について、10頭というのは例年通りですか。

観光物産課長：そうです。

記者：ルートを延長するとのことですが、これまではどのあたりまで行進していたのですか。

観光物産課長：岩手山が見える田んぼのいわゆる「撮影ポイント」までの往復でした。

記者：参加するのは基本的に滝沢支部の馬たちですか。

観光物産課長：3支部からです。滝沢が6頭、盛岡と矢巾から2頭ずつになります。

記者：初詣はコロナで延期になっていたことはありますか。

観光物産課長：コロナ禍でも、10頭集まることはなかったかもしれませんが、実施していました。

記者：自分ごと化会議について、今現在で申し込みは何人くらいですか。

たきざわ魅力発信室長：現在15名です。

記者：15人という数は、十分な数ですか。もう少し参加者が欲しいものですか。

たきざわ魅力発信室長：来週の月曜日（9日）が締め切りになりますが、もう少し参加してほしいと思っています。

記者：案内を送った人たちの中から参加申し込みをしていただくものということですね。

たきざわ魅力発信室長：そうです。

記者：最後は提案書を市長に提出ということですが、いつ頃になるでしょうか。

たきざわ魅力発信室長：全日程終了後になりますので、新年度、4月になってから提出ということになるかと思います。

記者：その提案を25年度以降の施策に活かすということですね。

たきざわ魅力発信室長：そうです。

記者：滝沢はるかについてですが、主に他のりんごとそういったところが違うのか教えてください。

経済産業部長：はるかは、岩手大学の先生が開発した品種です。市内に岩手大学の農場があり、その農場で育てられたのが起源です。そのはるかという品種のりんごを、糖度と、蜜の入り、見た目など品質の基準を設け、「滝沢はるか」という名前で出しています。はるかという品種の中でも、厳しい基準で厳選したものが滝沢はるかです。今日まさに、その基準をクリアしているかどうかの選果を行っています。

記者：例年その滝沢はるかは何kgぐらい出ているのですか。

観光物産課長：滝沢はるかの中にも基準を2段階設けていて、糖度が17度以上のプレミアムに関しては基準がかなり厳しいので、出るか出ないか、「何個」の単位です。その次に滝沢はるかとして、プレミアムよりも少しだけ糖度が低いものがありますが、こちらもなかなか厳しいものがあります。今年りんご自体は良いのですが、寒暖差が少なかったため、糖度や蜜の入りを農家さんも心配しています。

市長：冬場の寒さが、蜜の入りの一つの決め手になるそうです。今年は育ちが良く、4個入りの化粧箱に入らないのではとの話もありました。

記者：はるかを栽培している人はどれくらいいるのですか。

観光物産課長：正確な数はお答えできませんが、はるか自体の数は最近増えてきています。

市長：そばかすも販売開始の日だけではなく、1～2週間ほどの期間で農家さんが持ち込むので、皆さんには焦らずにお買い求めいただければと思います。

観光物産課長：色が黄色でさびが目立ちやすいのがありますが、お徳にお買い求めいただけるものもあります。

市長：他の品種のりんごも甘さや歯ごたえなど随分良いです。菓別の品種においていい出来だと思っています。

6 その他記者からの当日質問

記者：今年1年を振り返って、政策としてできたこと、できなかったことなど教えてください。

市長：1月1日のチャグチャグ馬コから公務が始まり、地元の文化を感じながら1月を迎えました。まずは第2次滝沢市総合計画について議会から承認を得て、4月からようやく動かすことができました。これは私の選挙公約であったり、市民の皆さんの声をしっかりと織り込んだものに出来たと思っています。市政懇談会や様残な場面を通じてこの総合計画の浸透と、意見をいただく場を作っていますので、語り合いながらこの総合計画を浸透させていければと思っています。今年も多くの皆さんにチャグチャグ馬コを見ていただく機会がありました。その中で、今年は昨年よりもビッグルーフ

周辺のお客さんが多かったように感じています。岩手山をバックに、伝統文化であるチャグチャグ馬コを広めることがと思っています。10月には、10年ぶりにチャグチャグ馬コを関東まで連れていき、京橋から日本橋まで歩くことができ、保存会の皆さんにとっても活力になったのではないかとと思っています。機会を見ながら、チャグチャグ馬コの浸透も図っていければと思います。市制10周年を迎え、意識しながらやってまいりました。この10年間、様々なことが変わってきたと思っていますが、やはりコロナがあったことで市民同士のつながり、地域と市民、地域と市のつながりが大きく変わってきたと思っています。そういった部分を今後の時代を見据えながら市制を運営していければなと思っています。また、若者活躍推進室、たきざわ魅力発信室の2つの室を新たにできましたが、その活躍を前に出しながら、学生の皆さんに滝沢で過ごす4年間、地域の在り方や自分の故郷の未来について考えてもらえるように、何を経験し何を考えていただくか、意識しながら今年1年間やってきたつもりです。まずは今後 IPU イノベーションセンター隣の用地の確保、仕事をしっかりと作りながら、岩手、滝沢で暮らす環境づくりにも気を配っていかれたらと思います。まずは一年、様々な課題もありましたが、大きな災害もなく無事に12月を迎えられたこと、感染症などにも配慮しながらそれぞれの健康についても考えられた1年だったかなと思います。

記者：政策として、残り3カ月でやりたいものはありますか。

市長：県と一緒にあって、イノベの隣の用地の確保を進めていければと思います。働く場、どういった魅力をつくっていくか、考えていきます。日赤の件など、地域医療についても現在アンケートを行っていますので、しっかりと結果についてご報告しながら、市の地域医療の在り方についてお示ししたいなと思っています。中心拠点の開発についても、どういった業者が決まってきたか、残りの期間の中で市民の皆様にお知らせできればなと考えています。

記者：アンケート結果の公表はいつ頃を予定していますか。

企画政策課長：自由記載も含めた単純集計については、今年度中に公表する予定です。それを踏まえて、地域医療の在り方についての報告書は、令和7年度中に取りまとめ、公表する予定です。